

I N F R A S T R U C T U R E + L I F E + I N N O V A T I O N

2026年6月期 第1四半期 決算説明資料

GRID+

株式会社グリッド(証券コード5582)

2025年11月14日

サマリー

売上高 —— 602百万円（前年同期比+154百万円、+34.5%）

■ 前期から続く電力や鉄道の大型案件の牽引等により、前年同期から3割超の成長

- ・ 電力は、前年同期比で送配電の会社含め顧客が4社増えるとともに、電力需給計画や優先給電指令等のプロジェクトが進展し、307百万円と98百万円増加 (+47.4%)
- ・ 製造・運輸は、前期に大型の配船計画のシステム導入が完了した影響で98百万円と76百万円減少 (△43.7%)
- ・ 都市・交通は、鉄道の配車計画や修繕計画のプロジェクトの進展等で164百万円と125百万円増加 (+317.7%)
- ・ エネルギーマネジメントは、電力系統接続の申請支援1件発生により14百万円（前期はなし）

営業利益 —— 114百万円（前年同期比+75百万円、+191.5%）

■ 人員増やオフィス移転等の影響を上回る堅調な增收により、前年同期から大きく増益

- ・ 1Q末のAIエンジニアは72名と前年同期末と変わらずも、蓄電所関連エンジニアは3名 (+3名)、営業・管理は42名 (+8名)と全体で従業員数が11名増加し、採用費を含めた人件費は39百万円増加。そのほかオフィス移転関連費用等で営業費用は合計78百万円増加するも、売上高の堅調な推移により営業利益は増加

計画進捗と今後の見通し —— 1Q売上高：計画比+6.4% 1Q営業利益：計画比+99.2%

■ 1Qは電力や鉄道の受注前倒し等で売上は計画を超過。半期も新電力の案件受注で超過の見通し

- ・ 電力会社の新規テーマや鉄道会社の修繕計画の受注前倒し等で1Q売上は計画超過。半期も新電力会社の需給管理システムの計画外の受注等が加わり計画超過の見通し。通期では目標水準に収束する見通し
- ・ 従業員数はほぼ計画通りに進捗し、採用のピークは下期となるため、採用費含めた人件費が下期で大きく増加する見通し

■ 26/6期1Q決算概況

- 近況報告
- マクロ環境
- 成長戦略
- 事業等説明

前年同期比較

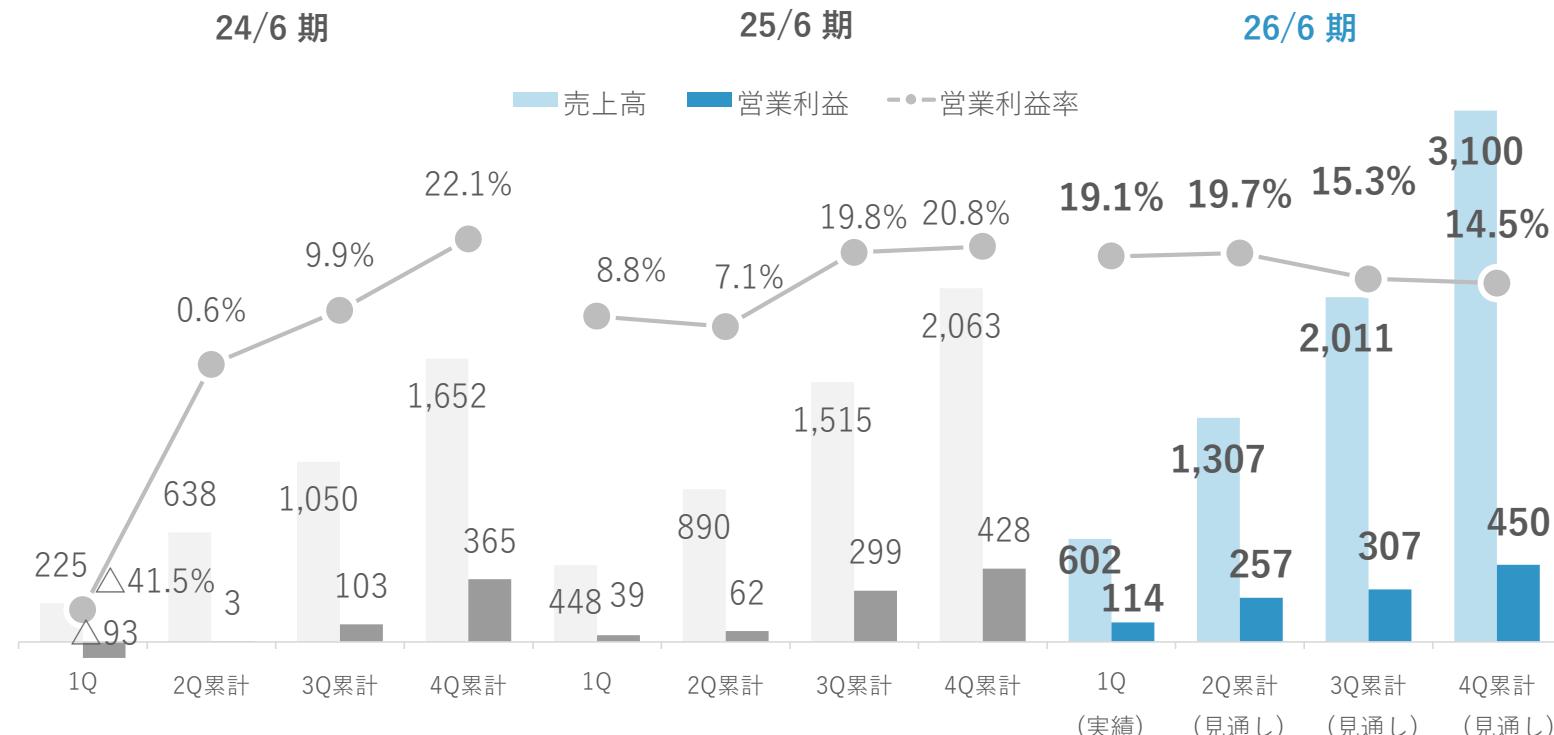
電力・鉄道の大型案件の進展等により、売上高は34.5%成長
人員増等の影響を上回る增收で全ての段階利益が大きく増加

(百万円)	26/6期1Q (売上高比)	25/6期1Q (売上高比)	前期比	計画 (売上高比)	計画比
売上高	602	448	+34.5%	566	+6.4%
営業利益	114 (19.1%)	39 (8.8%)	+191.5%	57 (10.2%)	+99.2%
経常利益	118 (19.7%)	39 (8.9%)	+197.5%	—	—
当期純利益	79 (13.1%)	24 (5.5%)	+221.1%	—	—

四半期累計見通し

底堅いAI売上と蓄電所関連の開発立ち上げが増収を牽引
増員・オフィス移転とそれに伴う費用は計画通り進捗

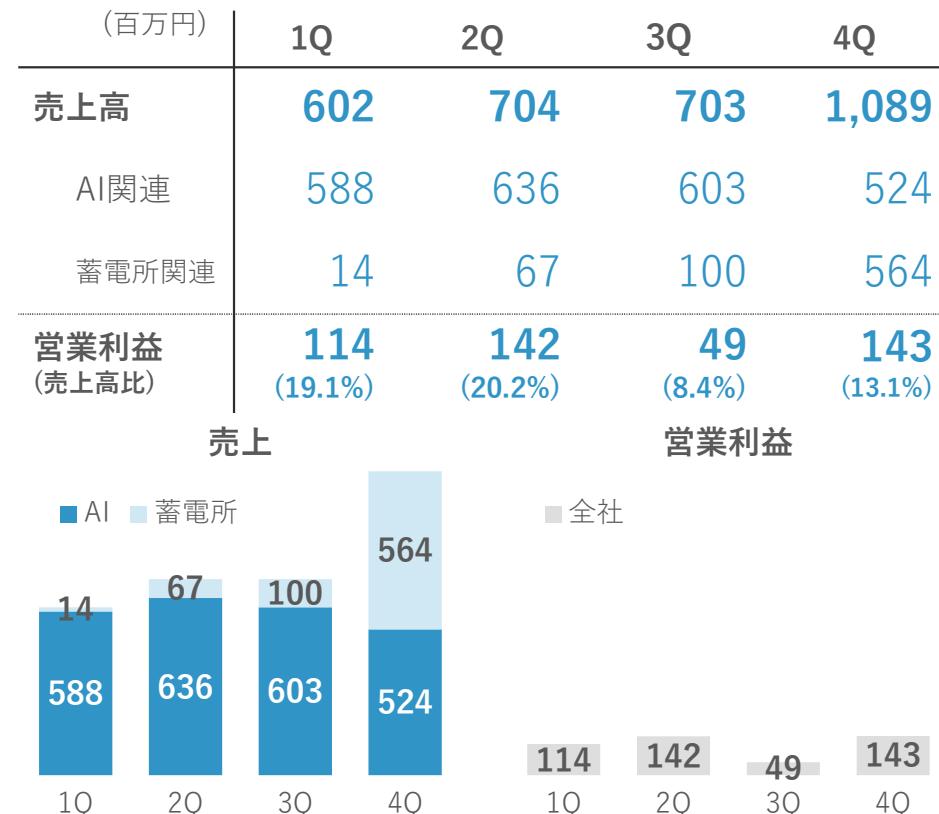
● 売上高と営業利益の推移



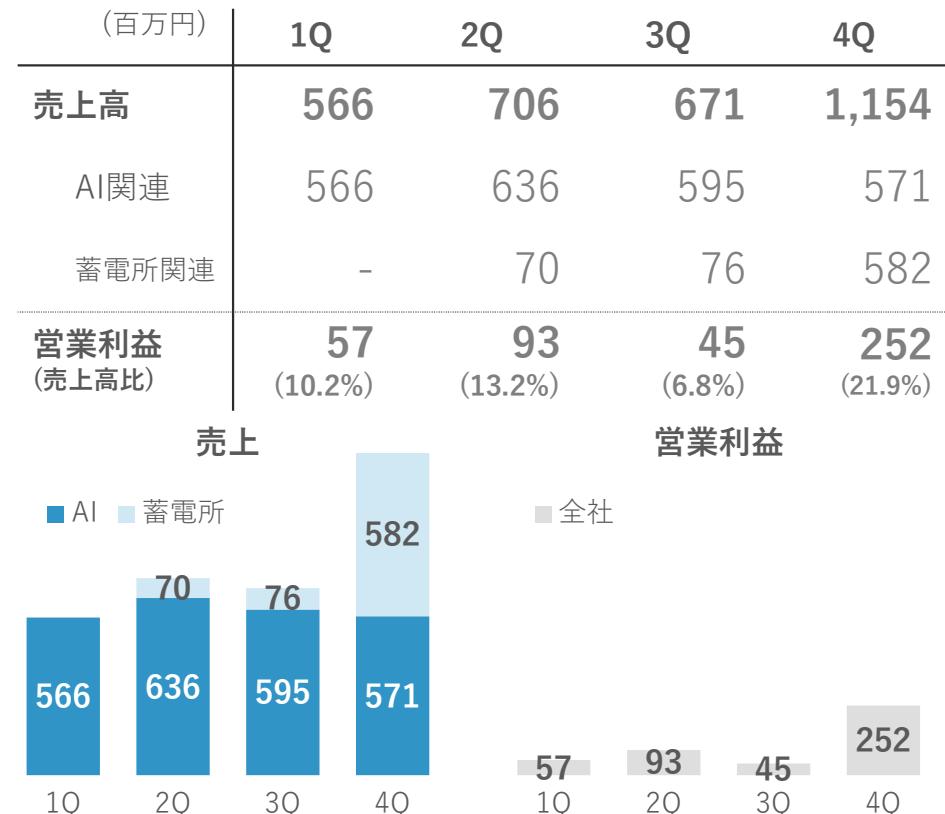
四半期会計見通し

電力を中心にAIの受注が順調に推移し、売上は前倒しと蓄電所関連の着実な推進による外注増等で収益が平準化

26/6期見通し



26/6期計画



領域別の売上構成

鉄道会社の配車支援システムの大型案件が牽引し
都市・交通の構成割合が前年同期から大きく伸長

(前年同期は無し)
エネルギー・マネジメント 2.3%

- 蓄電所開発
- データセンター
- 分散電源



- 渋滞予測
- 空調熱源制御
- 鉄道運行計画



(前年同期8.8%)
都市・交通 27.3%

その他
3.0% (前年同期5.5%)

(前年同期46.5%)
電力 51.0%

- 電力需給計画
- 送配電計画
- 調達計画



- 配船計画
- 生産計画
- 輸送計画



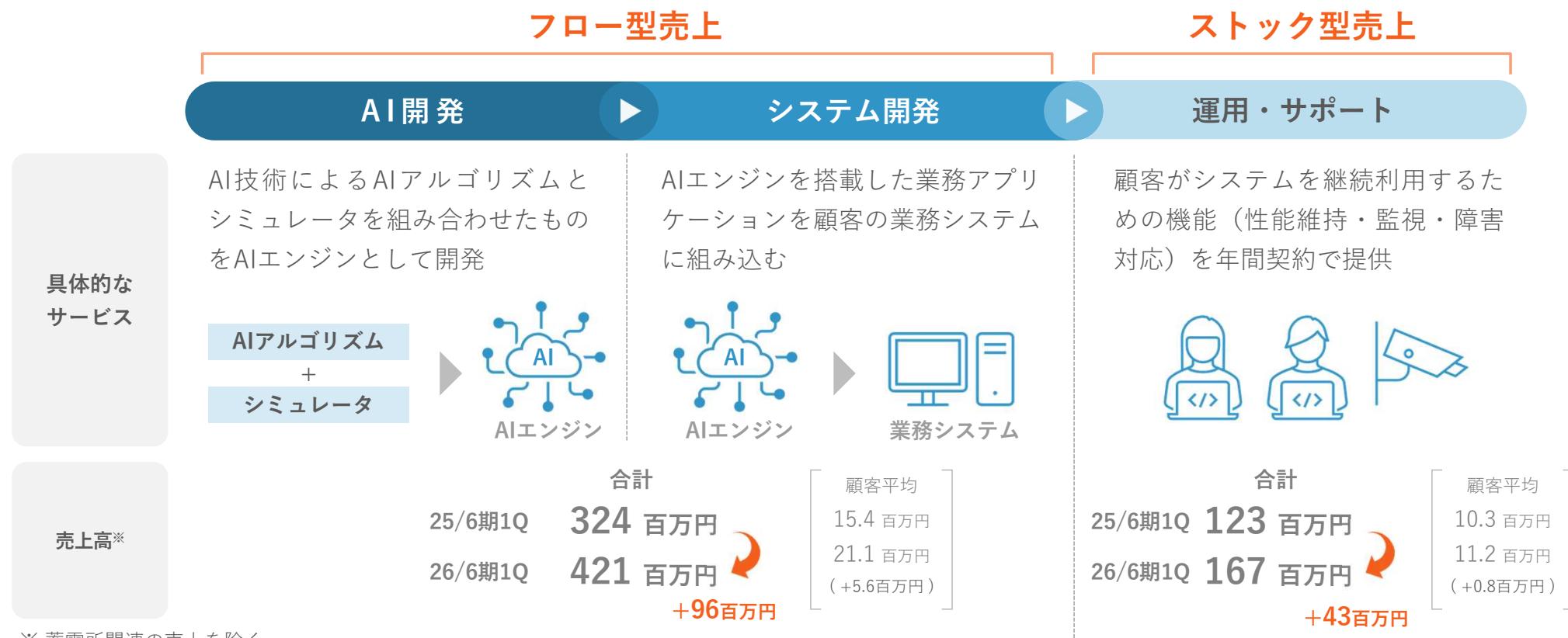
製造・運輸

(前年同期39.2%)
16.4%



AIのフロー型売上とストック型売上

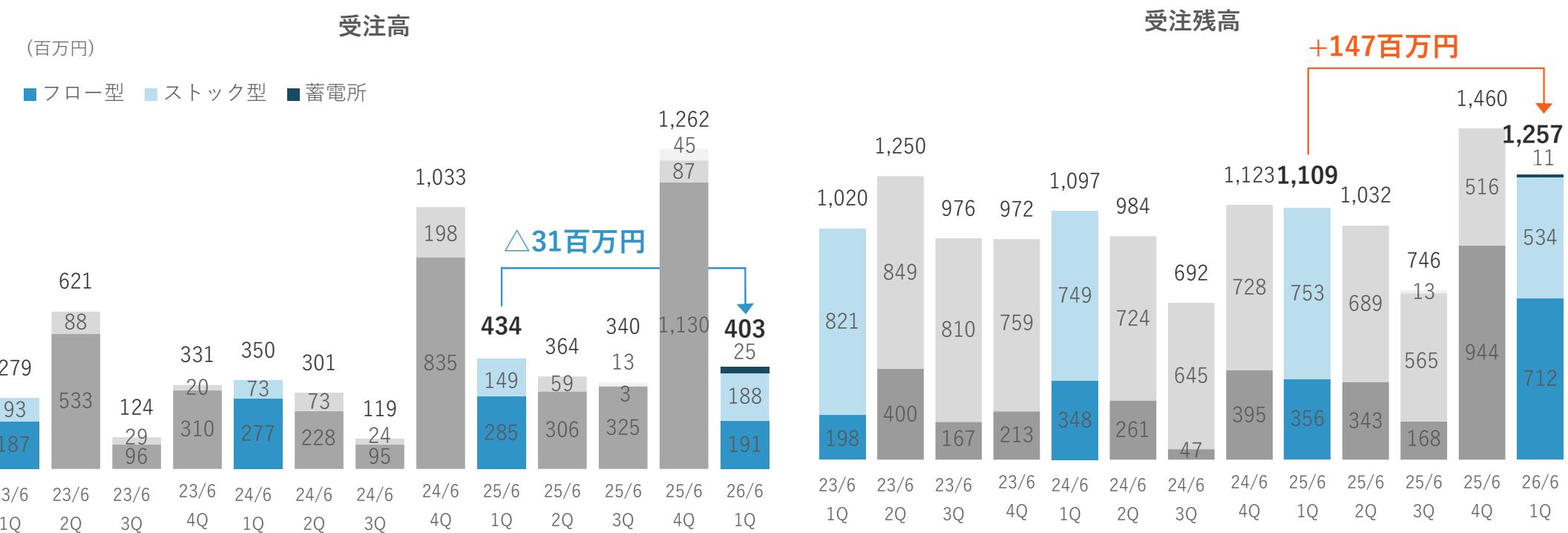
フロー型売上の増加は電力・鉄道の大型案件等が牽引
プロジェクトが4件増えた影響でストック型売上も増加



※ 蓄電所関連の売上を除く

受注高と受注残高の推移

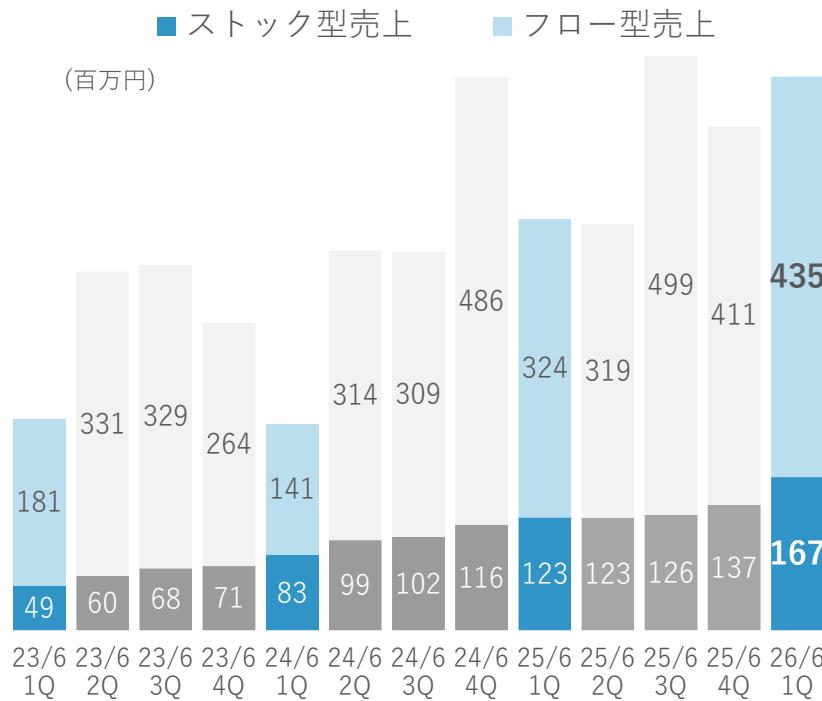
受注高は前年同期から微減となるも、受注残高は前期4Qに受注した大型案件の影響で前年同期末比 **+147百万円** と13.4%成長



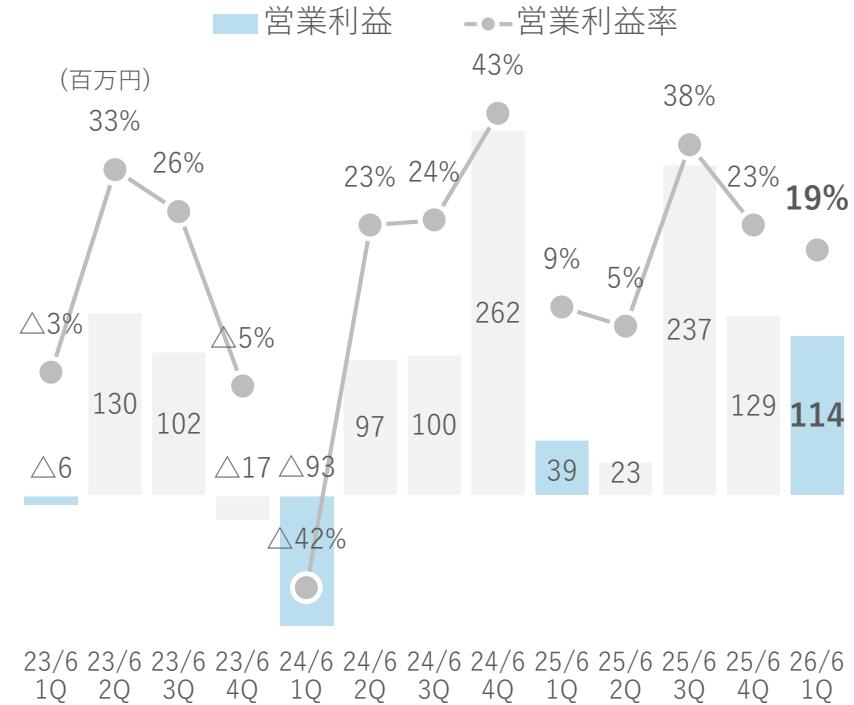
四半期業績推移

ストック型売上は四半期ごとに堅調に増加 フロー型売上も前年同期から1億円超の増加

● 四半期ごとの売上高



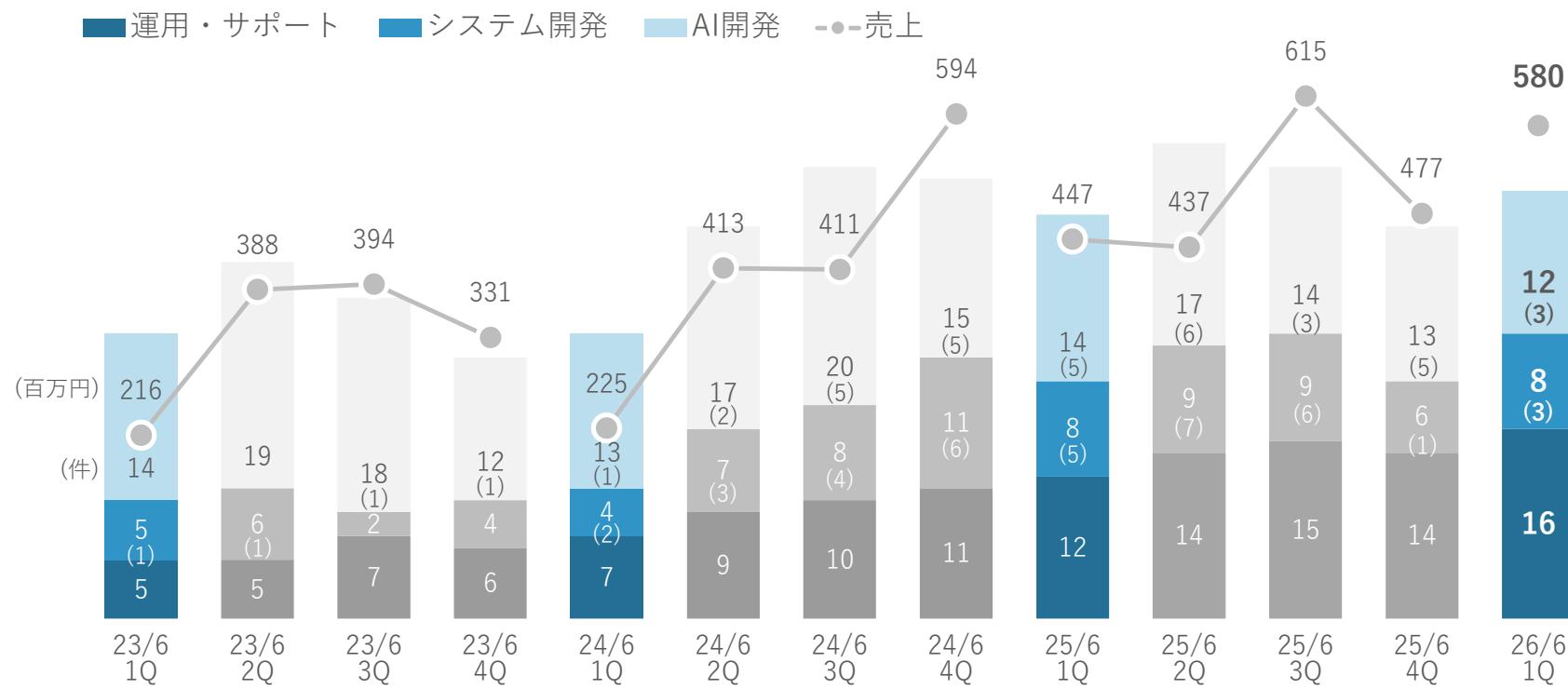
● 四半期ごとの営業利益と利益率



四半期ごとのAIプロジェクト数

AIのプロジェクト数は横ばいの推移を辿るも
案件の大型化で売上高は底上げ傾向

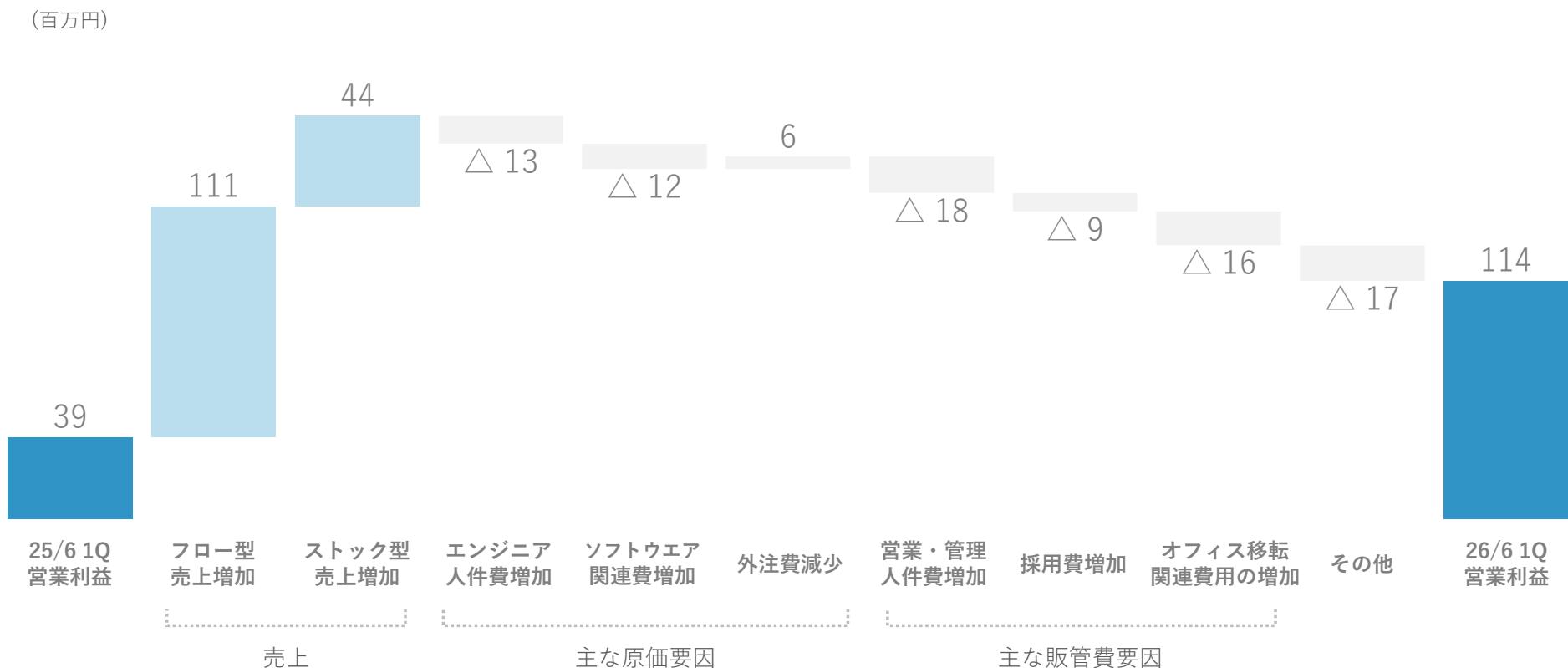
● 四半期ごとのサービス別のAIプロジェクト数と売上



※ 括弧書きは、運用・サポートを開始した顧客に対するアップセル・クロスセルの件数

営業利益増減要因

人件費やオフィス移転関連費等の想定通りの増加に対して
売上高の増加が想定を上回り**営業利益は前年同期から75百万円増加**

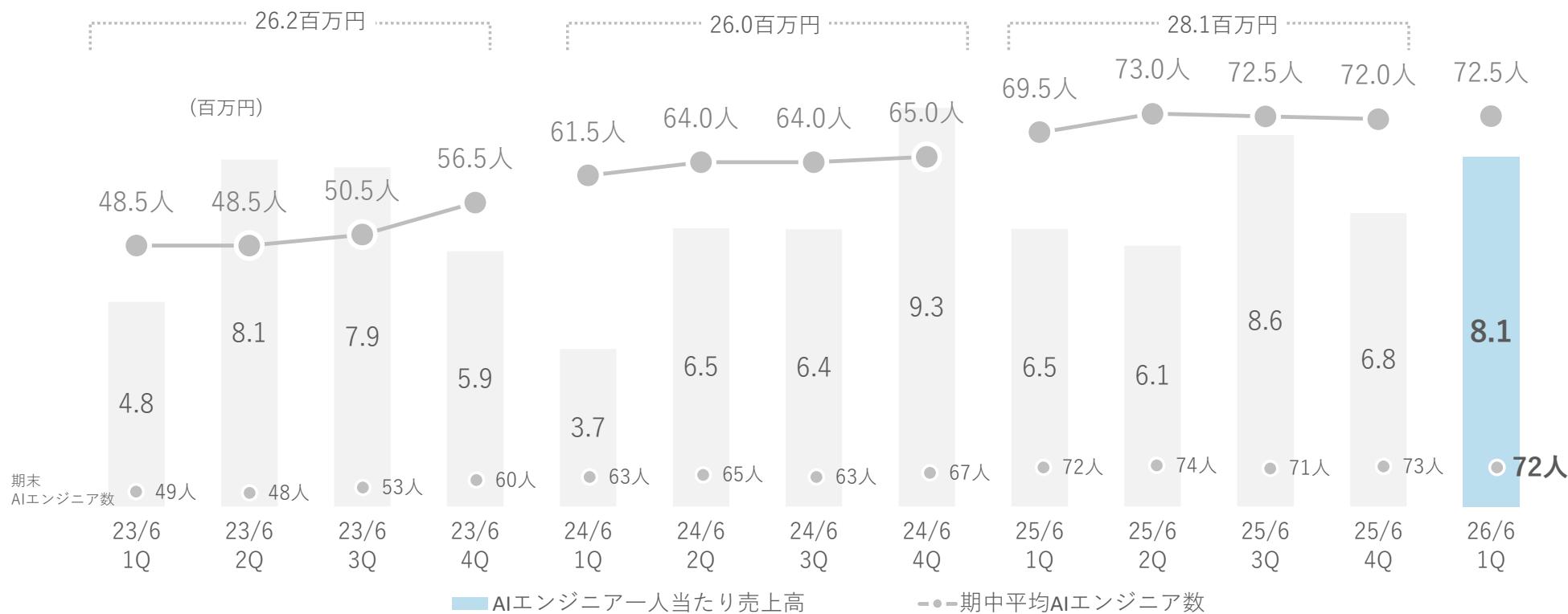


AIエンジニア一人当たり売上高

ReNomAPPSを活用した開発の横展開で生産性が向上 AIエンジニア数の伸びを上回る売上構造を強化

●四半期ごとのAIエンジニア一人当たり売上高※とAIエンジニア数

※ 四半期売上高 ÷ 四半期期首期末平均AIエンジニア数

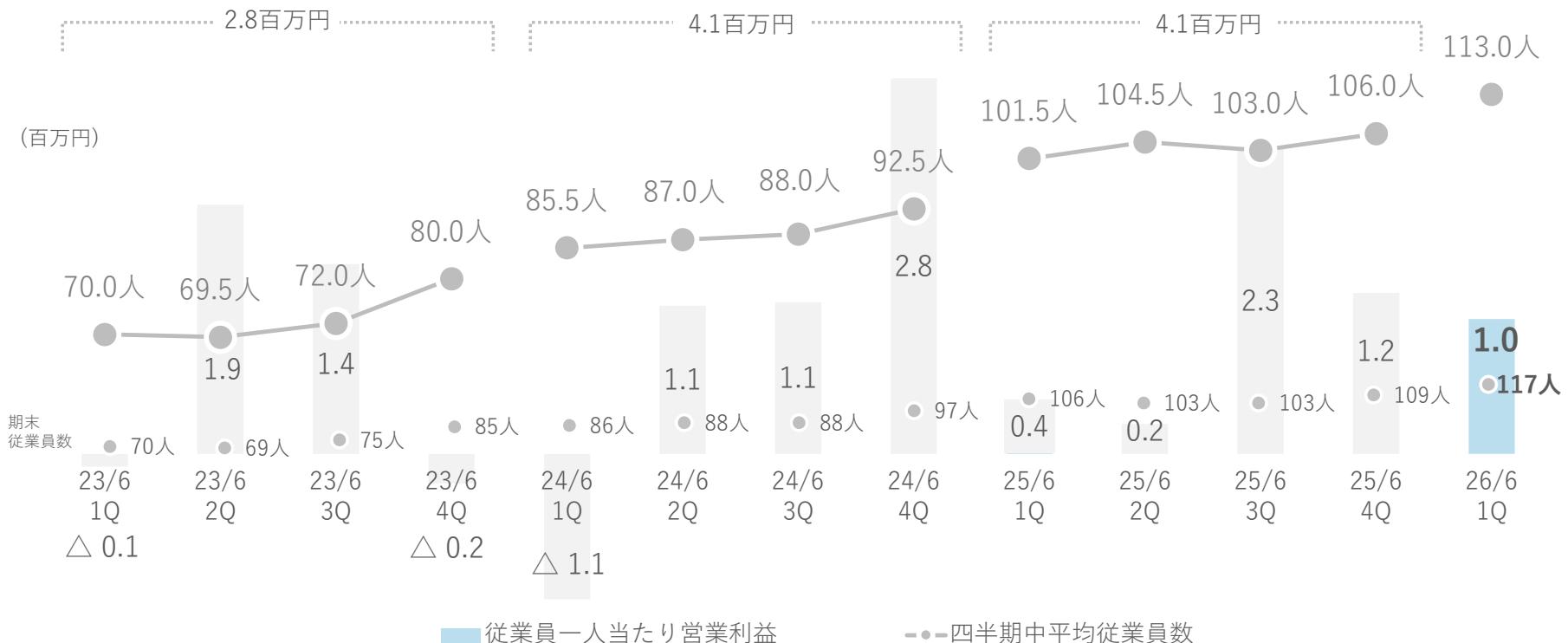


従業員一人当たり営業利益

QoQで営業部門を中心に全社従業員は8人増 (+7.3%)
一人当たり営業利益は横ばいで推移

● 四半期ごとの従業員一人当たり営業利益※と従業員数

※ 四半期営業利益 ÷ 四半期期首期末平均従業員数



主要な経営指標

顧客基盤の拡大により取引先数^{※1}を増やしつつ
案件の大型化で顧客平均売上^{※2}も増加

	26/6期1Q	25/6期1Q	前期比
売上高成長率	34.5%	99.2%	△64.8pt
営業利益率	19.1%	8.8%	+10.3pt
ストック型売上比率	27.8%	27.6%	+0.2pt
顧客平均売上 ^{※2}	19.4百万円	17.2百万円	+2.2百万円
主なサービス区分 ^{※3}	21.4百万円	18.6百万円	+2.8百万円
取引先数 ^{※1}	31社	26社	+ 5 社
主なサービス区分 ^{※3}	27社	24社	+ 3 社

※ 1 売上計上の対象となったエンドユーザ数 ※ 2 売上 ÷ 通期取引先数

※ 3 その他を除く、AI開発、システム開発、運用・サポートの 3 区分

貸借対照表

利益の堅調な増加により自己資本比率は90%超に上昇
M&A含む事業拡大に合わせて最適な資本構成を目指す

(百万円)	26/6期1Q	25/6期末	前期比
資産	4,404	4,417	△0.3%
流動資産	4,063	4,162	△2.4%
現金及び預金	2,846	3,197	△11.0%
固定資産	341	254	+33.9%
負債	384	477	△19.4%
流動負債	384	477	△19.4%
固定負債	-	-	-
純資産	4,019	3,940	+2.0%
自己資本比率	91.2%	89.2%	+2.0pt

■ 26/6期1Q決算概況

■ 近況報告

■ マクロ環境

■ 成長戦略

■ 事業等説明

太平洋セメント向け配船計画最適化

太平洋セメント向けAI配船計画最適化システム 2025年5月に国内セメント業界初の運用開始

各工場から全国の物流拠点へ
セメントを輸送する配船計画の組合せ

10^{1,400}
通り
(10の1,400乗)



膨大な条件を考慮して
最適な計画を人が策定するのは限界がある



輸送効率の向上、業務効率化が
課題



AIが膨大な輸送データを解析し、複雑な制約条件を考慮しつつ
最適な配船計画を組むことで業務改善に貢献

輸送コストの削減	積載量や航路を最適化し、計画段階で燃料使用量等を約10%削減
在庫管理の改善	各物流拠点の適正在庫を実現し、安定供給体制をより強固に
計画策定時間の短縮	従来の人が組む配船計画と比べ、計画策定時間を50%以上削減
働き方改革推進	船員法にも対応する効率的な配船計画を目指す
環境負荷低減	燃料使用量削減により温室効果ガス等の排出量を削減

北海道電力ネットワークとの協業

北海道エリアにおける電力安定供給のため 北海道電力ネットワークと優先給電指令支援システム開発で協業

ReNom POWER

ほくでんネットワーク向け優先給電指令支援システム

どの電源を、どの程度抑制するか

抑制量を自動計算

- ① 火力 + 揚水発電・蓄電池での調整
- ② 他地域への送電
- ③ バイオマス発電
- ④ 太陽光・風力などの自然変動電源
- ⑤ 原子力、水力、地熱など長期固定電源



ほくでんネットワークでは、北海道エリアにおける電力の安定供給のため、常時変動する電力需要に合わせて発電所の出力を調整しています。近年では、再生可能エネルギーの導入が進んだことにより、電力需要が少ない時期などには、火力発電の出力抑制や地域間連系線の活用等により需給バランスを調整した上で、それでもなお電気が余るおそれがあるときに、再生可能エネルギーの出力制御を行う場合があります。



九州電力向け石炭受払計画自動生成

石炭火力発電所における複雑性と高度な制約条件を満たした 九州電力向けの石炭受払日次計画システムの開発完了・運用開始

九州電力 石炭受払計画作成システム

石炭火力発電所では、発電に用いる石炭を海外から船で輸入し、貯炭場に「積み付け」、その後、日々の発電量に応じてボイラーへ「払い出し」ます。この「積み付け」と「払い出し」を日々の状況に合わせて決定する計画が「石炭受払計画」です。払い出しの際には、複数の品質の石炭を混ぜて使う「混炭」が必要となります。発電需要を満たすだけでなく、今後の運用に支障が出ないよう、貯炭場に混炭可能な石炭を適切に残すことも考慮しなければなりません。



九州電力 芦北（れいほく）発電所

導入効果

計画策定時間
大幅削減

燃料供給
安定

属人化
解消



日本郵船、MTIとの共同開発

最大数百万通りの配船計画の候補から最も合理的な計画を立案する 自動車専用船の配船計画システムを共同開発・運用開始

日本郵船 配船計画最適化システム



日本郵船運行の自動車専用船「DAISY LEADER」

日本郵船では、世界最大規模である100隻超の自動車専用船を運航しています。これまで輸送配船計画業務は、数ヶ月先までの数百航海に対し多様な条件を総合的に考慮する必要があり、極めて複雑かつ属人的なものになっていました。こうした課題に対応するため、配船業務に関わる情報や判断要素を整理・構造化し、計画立案の精度と効率を高める仕組みの構築を目指しました。



パートナーシップ契約・プロジェクト参加

Gurobi Japanとのパートナーシップ契約

■ 社会インフラ領域で増大する最適化ニーズに応じた、最適化ソリューションをGurobi Japanと共同開発

パートナーシップで目指すこと

- ・ 社会インフラの最適化：電力需給、配船計画、交通計画などの複雑な組合せ最適化問題を高速解決
- ・ デジタルツイン連携：現場オペレーションを精密に再現したデジタルツイン上での最適化シミュレーション
- ・ 実績ある適用領域：電力・エネルギー、海運・物流、都市交通など社会インフラの幅広い分野での活用
- ・ 属人化解消：熟練技術者の経験と勘に依存していた計画業務の自動化・標準化
- ・ 大幅なコスト削減：最適化による運用効率向上とオペレーションコストの削減

量子・スパコン連携プロジェクトへの参画

■ 理研・ソフトバンクが推進する「JHPC-quantum」プロジェクトにトヨタ自動車とともにテストユーザーとして参画

- ・ 当社は、自動車・エネルギー・社会インフラ分野で増加する大規模かつ複雑な組合せ最適化問題（部品設計の最適化や物流・生産計画など）に対し、計算時間の短縮と解の精度向上を両立させる新たな計算基盤への期待に応えるため、理研およびソフトバンクが推進する量子コンピュータとスーパーコンピュータを連携利用する「JHPC-quantum」プロジェクトに、トヨタ自動車と共同でテストユーザーとして参画し、2025年8月より本格的な実証実験を開始。

■ 26/6期1Q決算概況

■ 近況報告

■ マクロ環境

■ 成長戦略

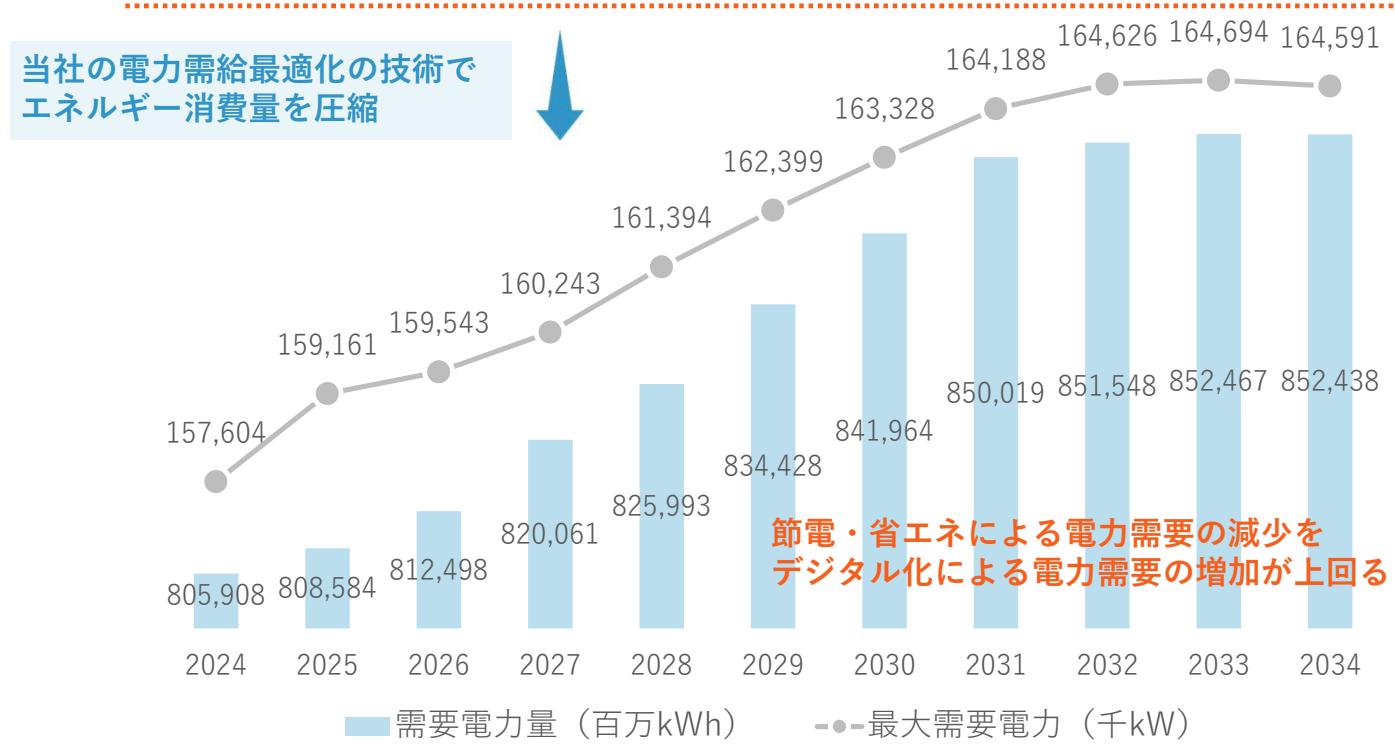
■ 事業等説明

今後の電力需要

社会全体のデジタル化でデータセンター・半導体工場の新增設が続き
2034年までに需要電力量は460億kWh超増加

2034年度までの最大需要電力と需要電力量(使用端)

産業競争力の強化や経済成長のため安定的かつ効率的な電力の供給体制が求められている



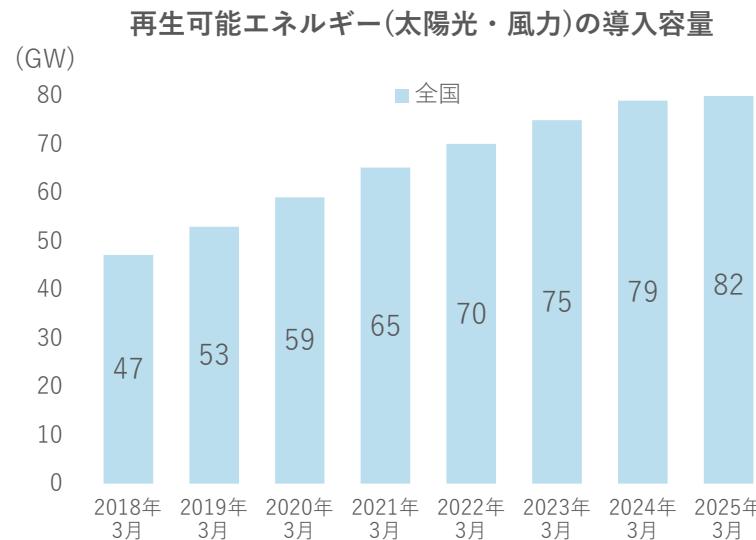
電力広域的運営推進機関「全国及び供給区域ごとの需要想定(2025年度)」より当社作成

© 2025 GRID Inc.

今後の再生エネルギー

再生可能エネルギーの導入量だけでなく、出力制御量も増加
2040年度には電源構成の4~5割が再生可能エネルギーの見通し※
経済的で安定的なエネルギー需給体制に向けて蓄電池は必須

※資源エネルギー庁「今後の再生可能エネルギー政策について」2025年6月3日公表



資源エネルギー庁「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法情報公表用ウェブサイト」より当社作成

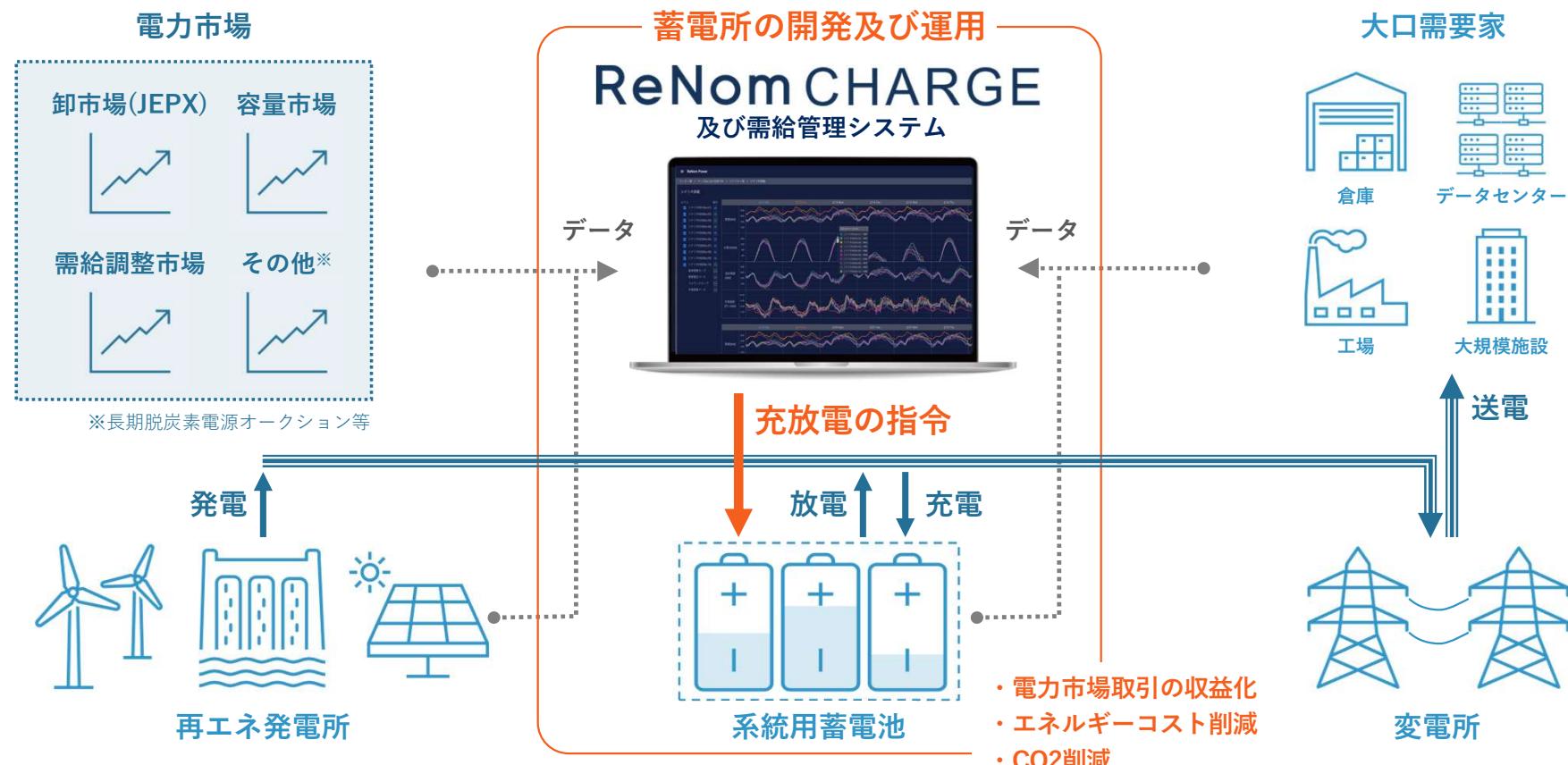


資源エネルギー庁「再生可能エネルギーの出力制御に関する長期見通し等について」2025年6月27日公表、「再生可能エネルギーの出力制御に関する短期見通し等について」2025年1月23日公表、より当社作成

今後も増加していく再生可能エネルギーに対して、出力を制御する代わりに蓄電池に充電し
再生可能エネルギーの有効活用を促進して、経済的かつ安定的なエネルギーの需給体制を構築

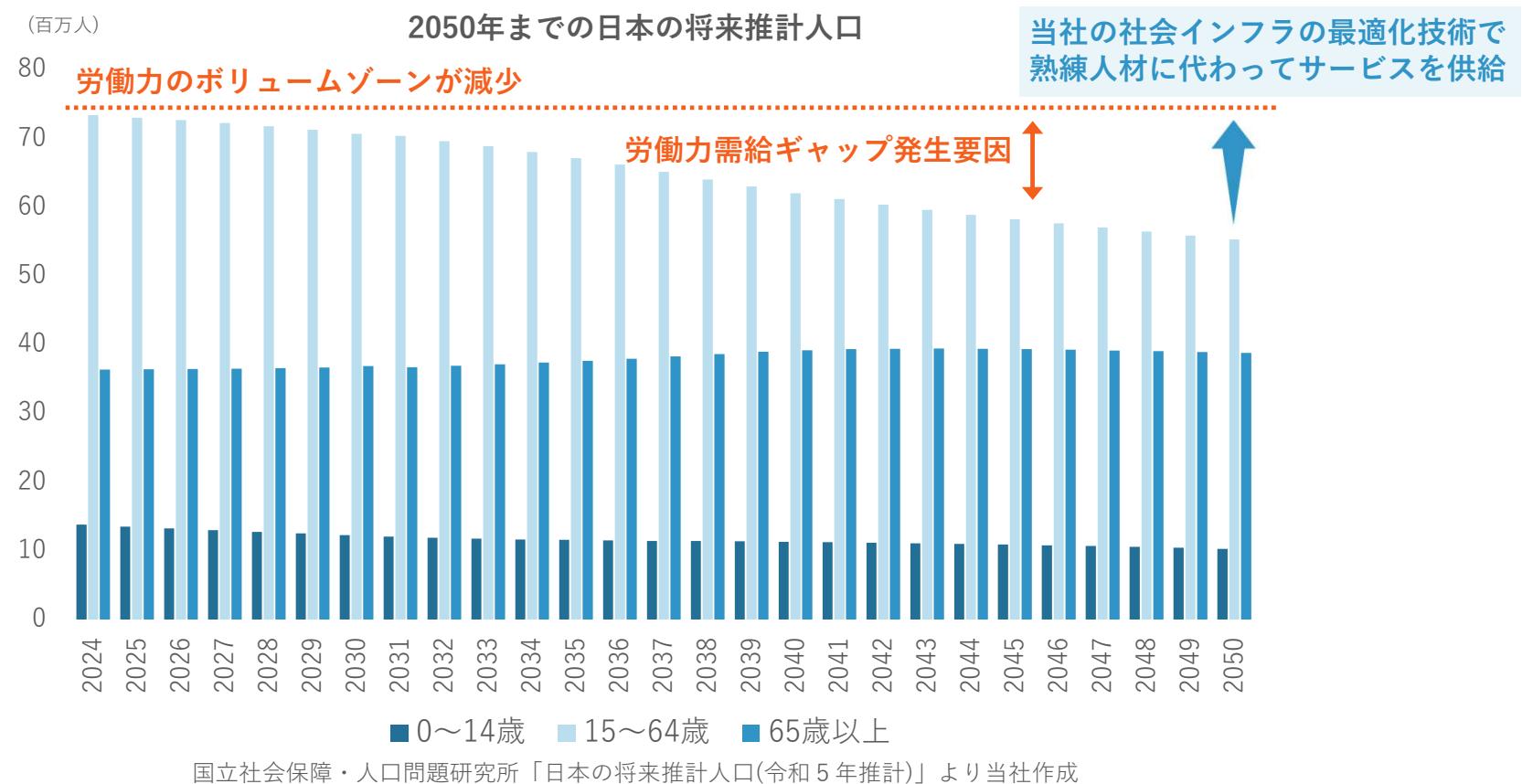
当社の最適化技術の活用

系統用蓄電池の充放電の最適化を実現する技術とともに 蓄電所の開発から運用までのワンストップサービスを提供



今後の労働人口

65歳以上の高齢者人口が微増である一方
15～64歳の生産年齢人口は2040年までに1,100万人以上減少





安定供給を支える人たちを支えるイノベーション

INFRASTRUCTURE + LIFE + INNOVATION

■ 26/6期1Q決算概況

■ 近況報告

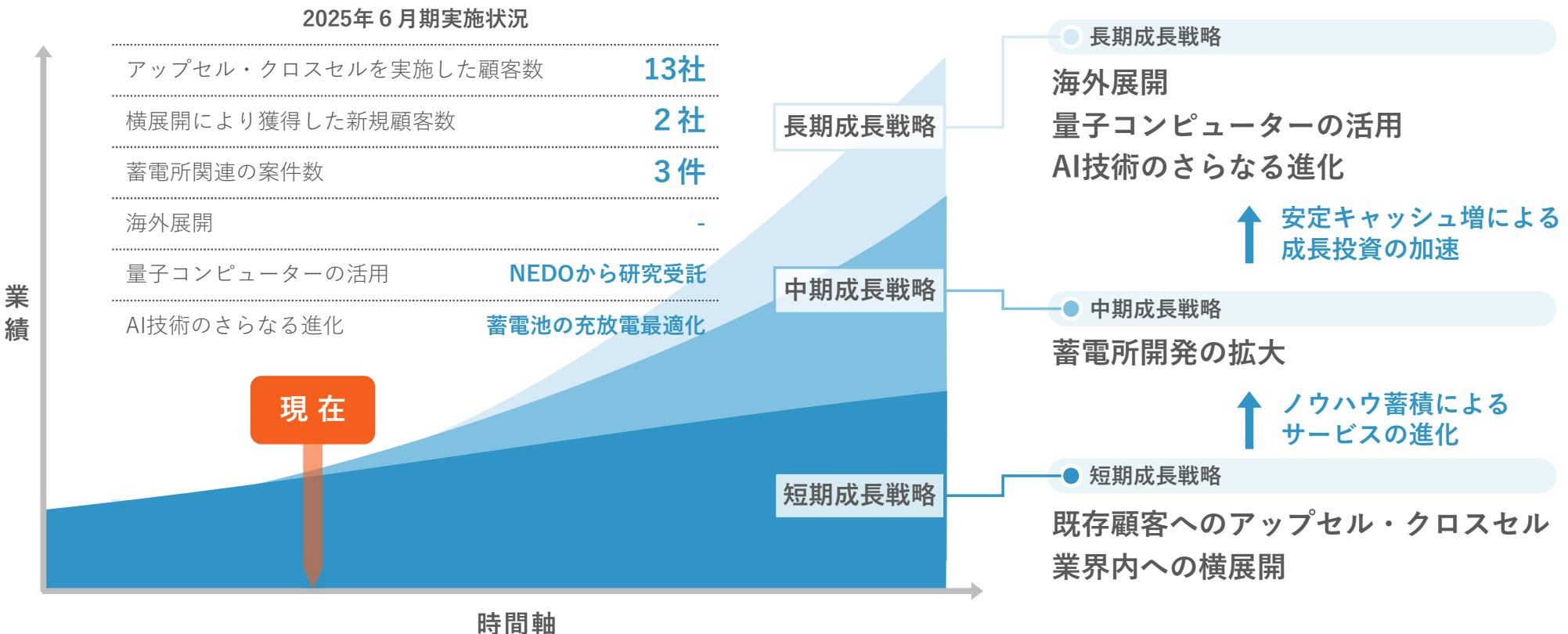
■ マクロ環境

■ 成長戦略

■ 事業等説明

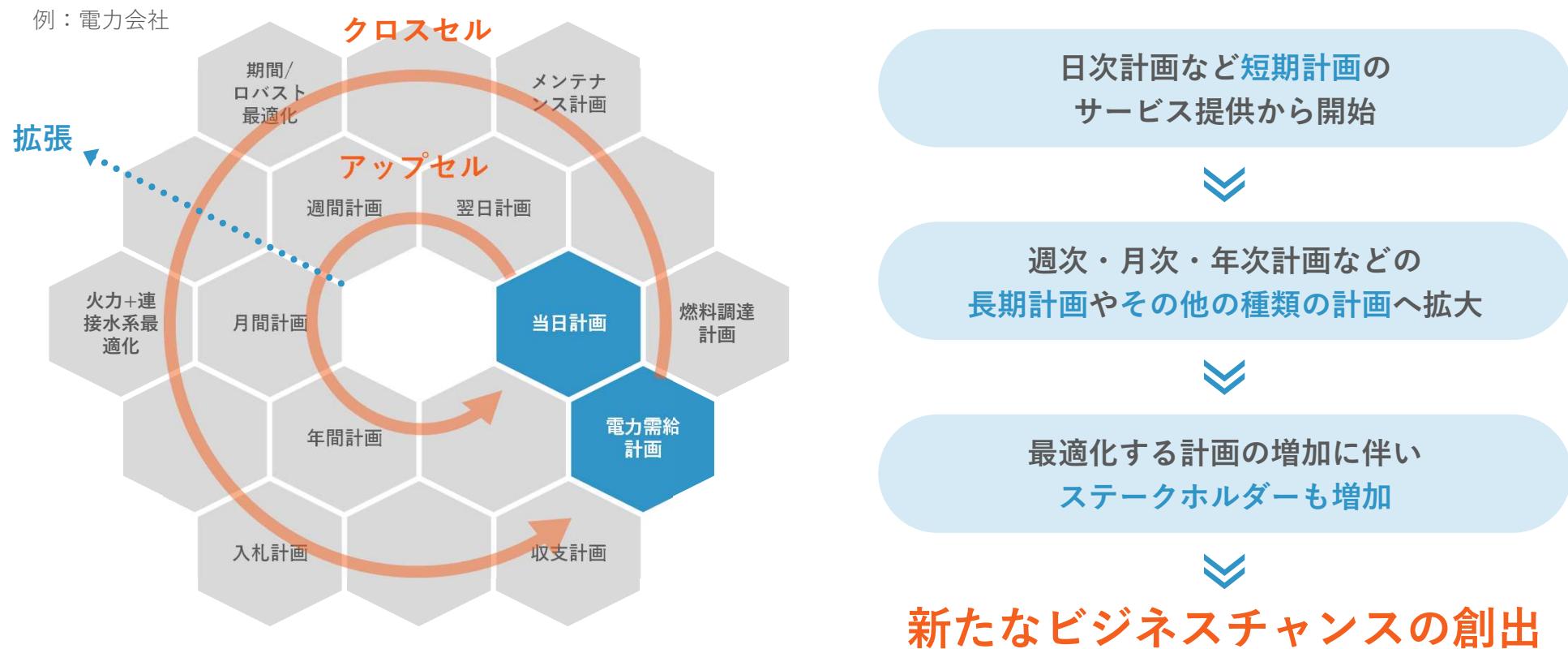
成長イメージ

上場による調達資金を開発体制等の強化へ投資
サービスの進化で、事業拡大の加速と持続的な成長を目指す



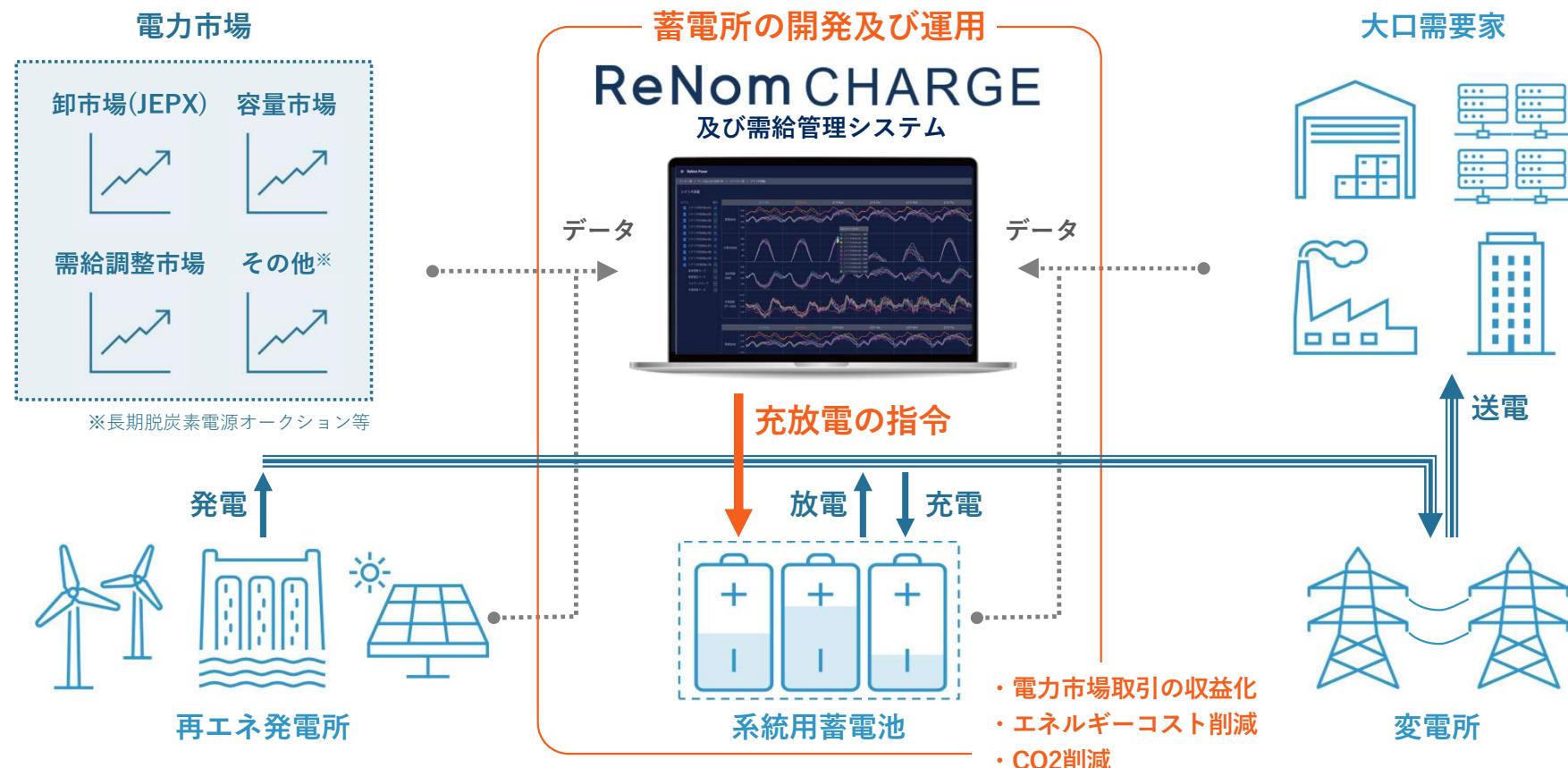
短期成長戦略：アップセル・クロスセル

企業内の多種多様な計画へ最適化を拡張し 戦略的に顧客生涯価値を最大化



中期成長戦略：蓄電池事業の拡大

系統用蓄電池の充放電の最適化を実現するとともに
蓄電所の開発から運用までのワンストップサービスを提供



長期成長戦略：海外展開

社会インフラの業務オペレーションは世界共通
計画最適化の領域は海外においてもブルーオーシャン



特定産業向けのアプリケーション
を強みに海外展開

国内の実績をROI※として明示することで
海外展開への可能性を強化

特定産業向けのアプリケーション
ReNomAPPSにより海外ビジネスにおける
デリバリーリスクの低減を図る

※ ROIとは、return on investmentの略で、投じた費用に対してどれだけの利益を上げられるかを示す指標

長期成長戦略：量子コンピューターの活用

実ビジネスの課題解決の発展を目指し 量子アルゴリズムの研究開発を加速

2017~

量子アルゴリズムの研究開発を開始

2018~

量子アルゴリズムに関する論文を発表

2021~

量子アルゴリズムに関する特許を申請

2024~

量子コンピュータ導入に向けた状況

グリッドの主な研究成果

量子モンテカルロ

量子コンピュータ上で乱数を発生させ、複数回シミュレーションを行ない、解を確率的に推定するアルゴリズムを開発

ハイブリッド量子古典動的計画法

メモリの制限やハードウェアのノイズによる計算能力の制限解消に有効な、古典コンピュータと量子コンピュータのハイブリット型量子回路を開発

過学習しにくい性質を実証

機械学習の精度向上のボトルネックとなっている「過学習」が、量子機械学習器において過学習しにくいという性質を詳細な数値実験を通して世界で初めて実証

仮想発電所需給調整におけるリスクヘッジ型量子古典確率最適化手法の開発

量子回路でVPPの制御を用いて実現する世界初の研究

本番運用に向けて
研究開発を加速

2024年度「量子・古典ハイブリッド技術のサイバー・フィジカル開発事業」
採択決定



- 26/6期1Q決算概況
- 近況報告
- マクロ環境
- 成長戦略
- **事業等説明**

会社概要

会社名 株式会社 グリッド GRID Inc.

代表取締役 曽我部 完

設立 2009年10月

資本金 54百万円 (2025年9月30日現在)

事業内容 人工知能を用いたシステムの開発・販売・コンサルティング・保守・運用サポート業務 等

従業員数 117名 (2025年9月30日現在)

本社所在地 東京都港区北青山3-6-7 明治安田生命青山パラシオ4F



Mission

インフラと社会を、 その先へ

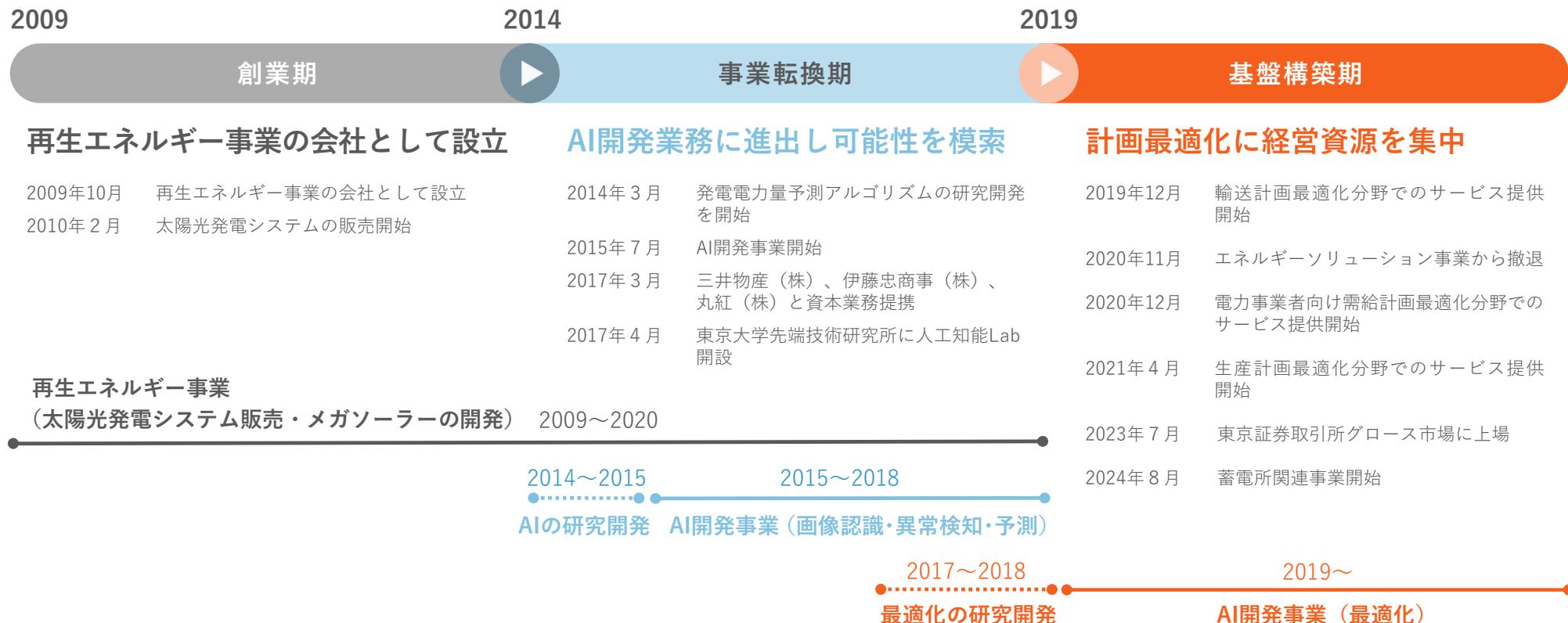
私たちは、アルゴリズムとテクノロジーで
これまでのインフラを再定義し、
未来の社会を支えるインフラを創造します。

グリッドのテクノロジーはインフラを進化させ、
持続可能な社会づくりに貢献します。



沿革

再生エネルギー事業の会社として設立。2014年にAI開発事業に事業を転換し、2019年より計画最適化に経営資源を集中



重点ドメイン

AI × 最適化 を社会インフラの重点ドメインに集中して展開

01

電力

電力需給計画

送配電計画

電力取引

02

製造・運輸

配船計画

生産計画

輸送計画

03

都市・交通

鉄道運行計画

空調熱源制御

渋滞予測

04

エネルギー管理

蓄電所開発

データセンター

分散電源

事業内容 AI開発

社会インフラのオペレーションを最適化するAIエンジンの開発

Before 人による計画業務（例）



熟練人材

- 組合せ 1 シナリオ × 1 計画
- 計画作成時間 数時間～数日間
- 計画結果 実績で事後確認

After AIエンジンによる最適化技術（例）



AIエンジン

- 組合せ 複数シナリオ × 複数計画
- 計画作成時間 ... 数分
- 計画結果 シミュレータで事前確認

事業内容 システム開発

AIエンジンを搭載した業務システムを提供

顧客の業務システムに当社の業務システムを組み込み、計画最適化を実現

業種ごとのシステム



電力システムアプリ & APIs



配船計画アプリ & APIs

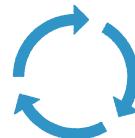


生産計画アプリ & APIs



鉄道計画アプリ & APIs

業務システム画面

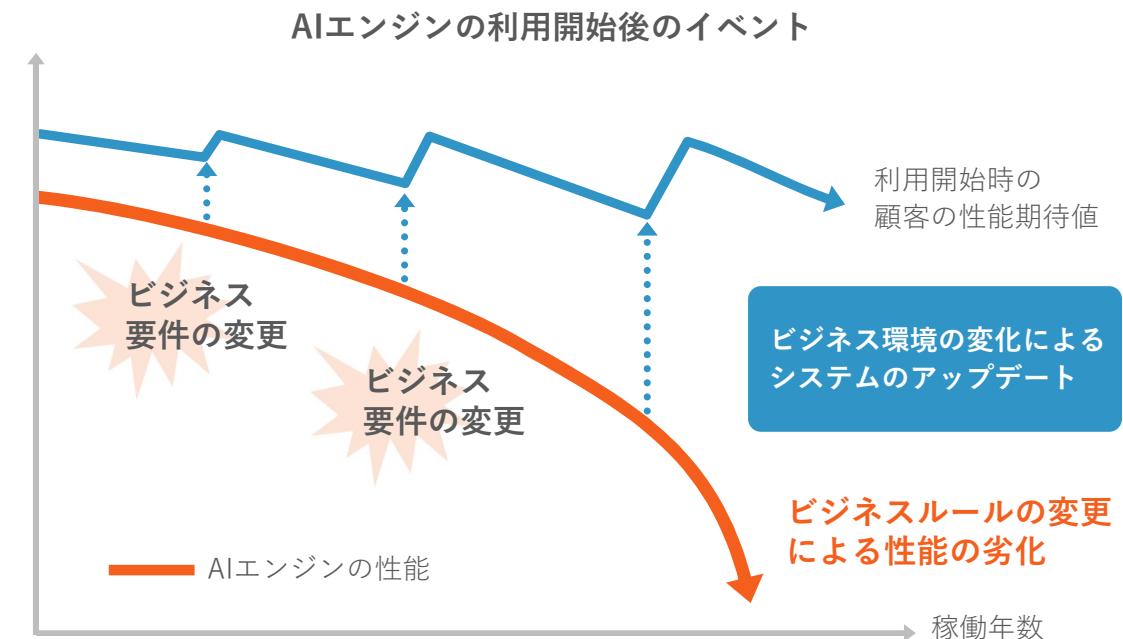


当社が**社会実装**する最適化 ▶ 電力需給計画、送配電計画、配船計画、輸送計画、生産計画、鉄道計画等

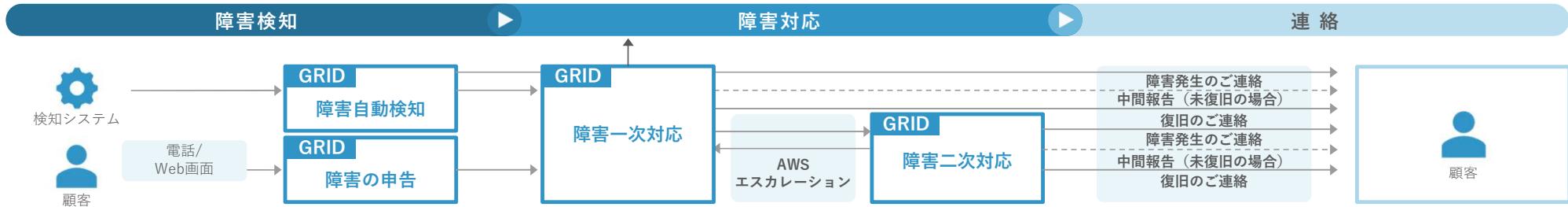
事業内容 運用・サポート

AIエンジンの性能維持 障害監視・対応を行う 運用・サポート

顧客のビジネス要件の変化やデータの質の変化により、AIエンジンは性能が劣化する可能性があるため、性能を維持しつつ顧客がシステムを利用し続けられるよう、障害監視・対応を行うとともにAIエンジンのチューニングを行うサービスを年間契約として提供

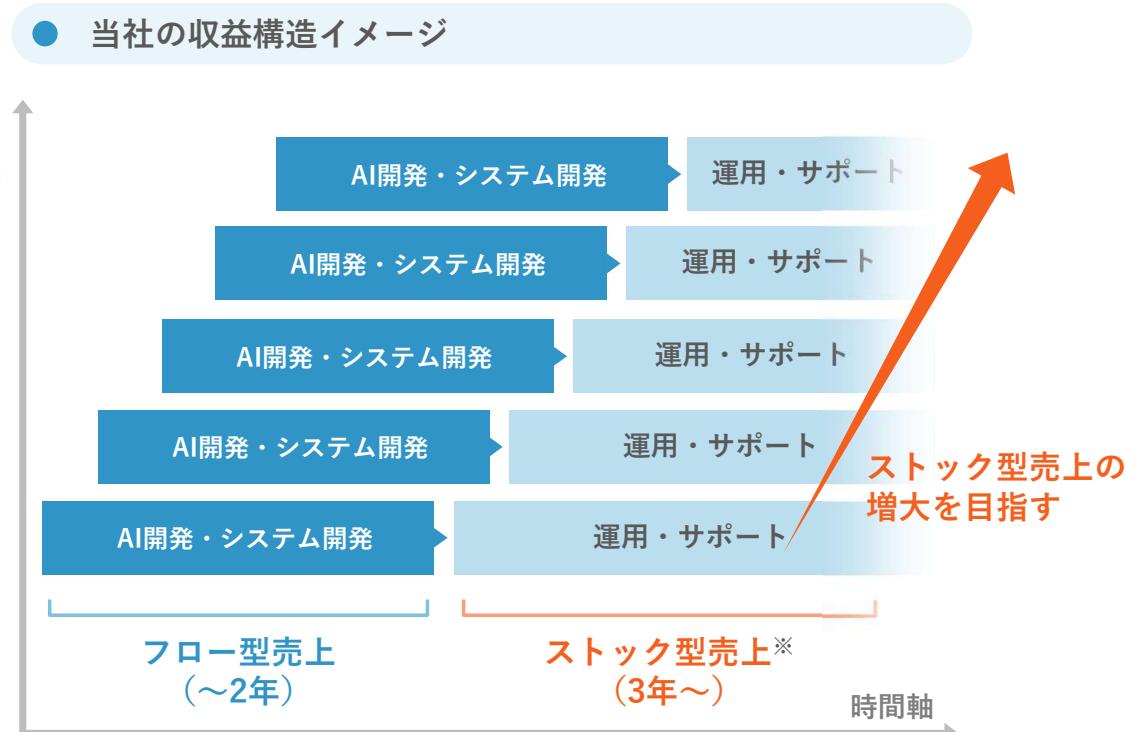
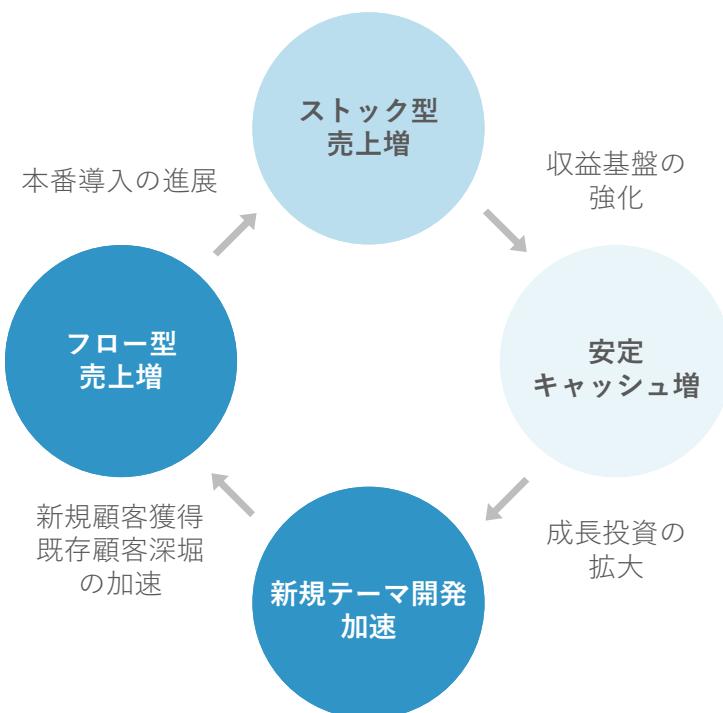


障害対応フロー



収益構造

フロー型売上の積上げにより、ストック型売上を継続的に拡大



25/6期 1Q	324 百万円	123 百万円
26/6期 1Q	421 百万円※	167 百万円

※ 蓄電所関連の売上を除く

© 2025 GRID Inc.

コアテクノロジー

デジタルツインとAIアルゴリズムの融合による最適化技術

現実世界の**ビジネスルール**や**物理法則**をデジタル空間に再現し
ビッグデータを用いず※、**AIアルゴリズム**で計画を最適化する

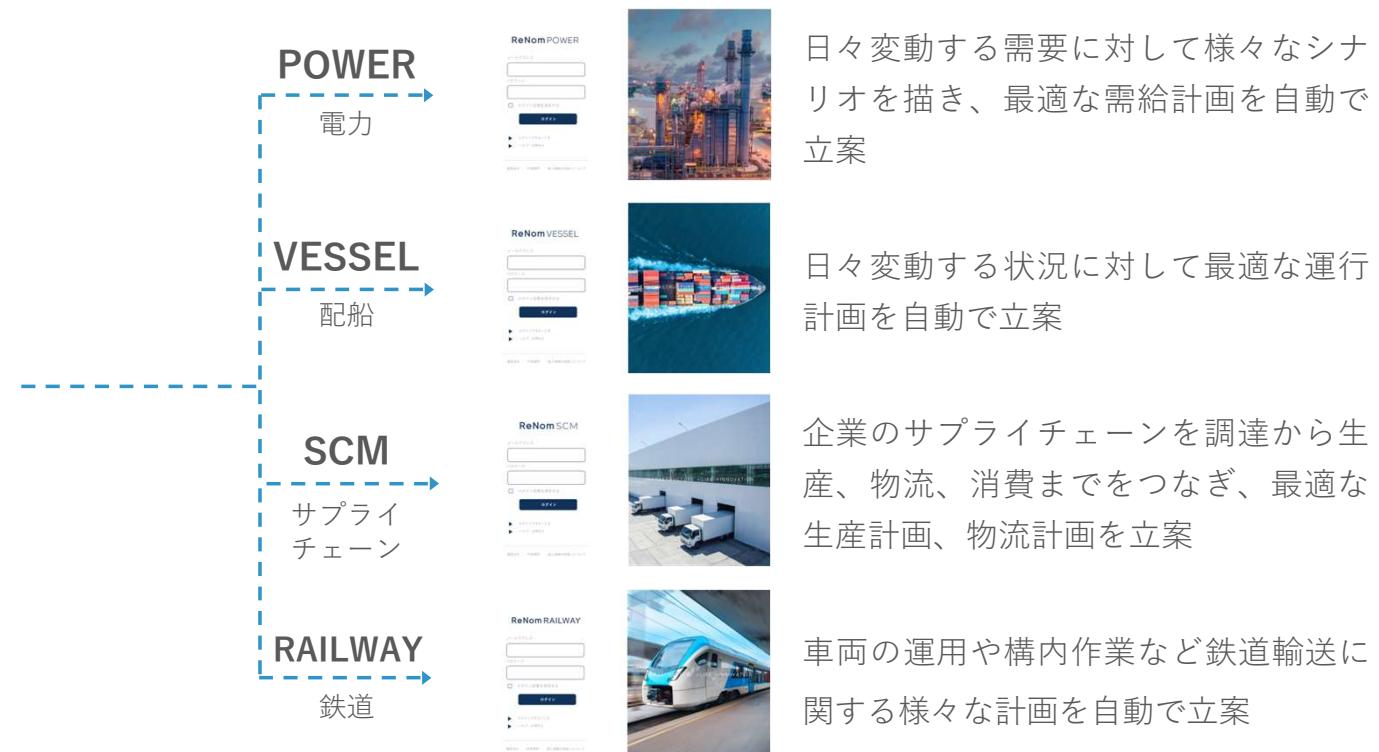


※ AIエンジン内のシミュレータが顧客のビジネス環境を再現してパラメータ値の入力でデータを生成できるため、ビッグデータが不要

ReNomAPPSによる横展開

電力・配船・製造・鉄道をはじめ 特定産業向けにアプリケーションを投入し、横展開を加速

ReNom APPS
for industry SaaS



人材戦略

社会インフラ出身の エンジニアによる 豊富な業務知識

当社は、業務知識をエンジニアのコア・コンピタンスとし、それにデータサイエンティストやITエンジニアの能力を付加することで他社にはない人材戦略を展開

最適化のエンジニア数は 約70名と国内最大級

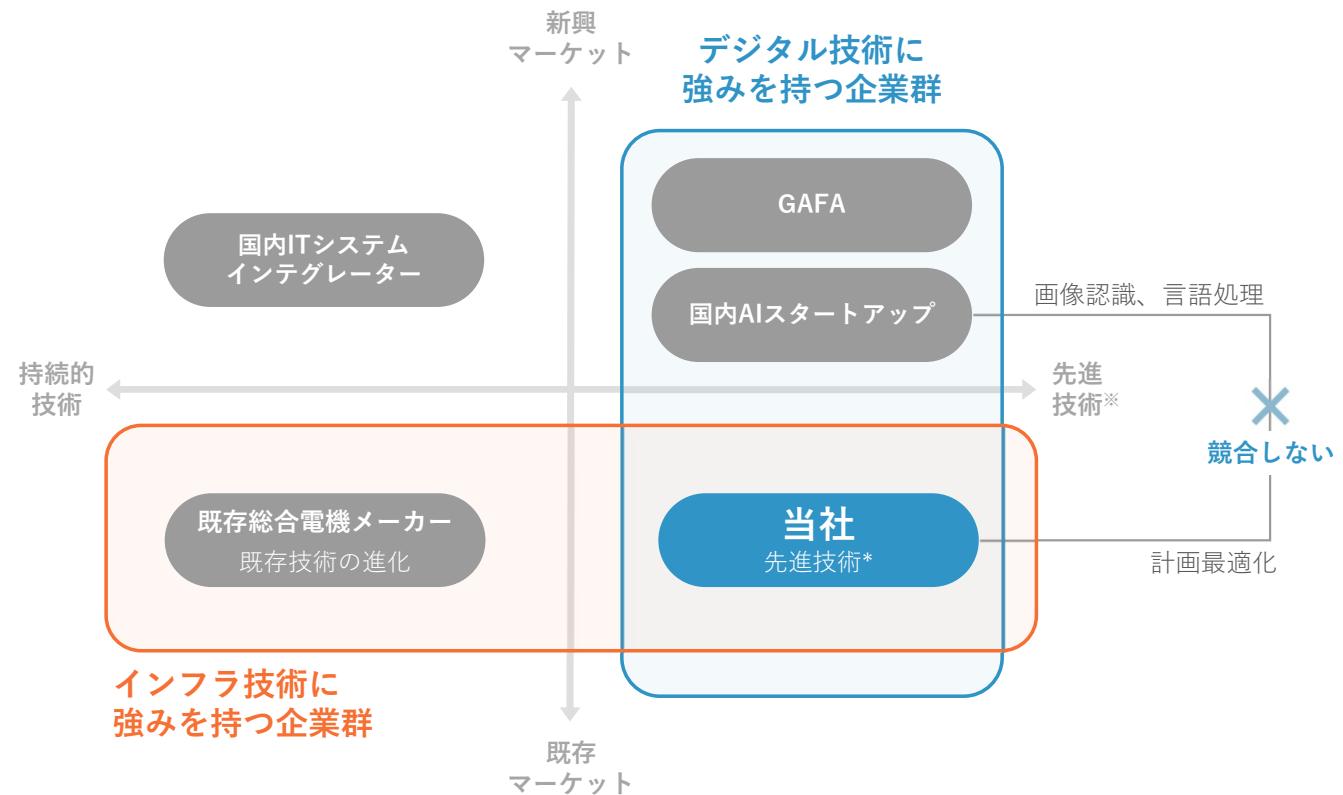


ポジショニング

社会インフラ × 最適化による差別化と集中で 競合が少ない独自のポジションを確立

当社の競合は、AIスタートアップではなく
国内の歴史ある**巨大な総合電機メーカー**

当社独自のソリューションである
数理最適やメタヒューリスティクス※に
最新AI技術を組み合わせたAIアルゴリズムと
製品販売を伴わないサービス提供により
技術面、価格面ともに優位性を確保



※ メタヒューリスティクスとは、現実空間において膨大な組合せが発生する最適化問題を解くための経験的手法（ヒューリスティクス）を有機的に結合させたアルゴリズム

※ AIを使った技術であり、既存技術と比較して高い優位性のある技術

免責事項

本資料の取扱いについて

本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。これらは、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大きく異なる場合があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれていますが、これらに限られるものではありません。